

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 5 月 15 日現在

機関番号：10101

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2010～2014

課題番号：22320075

研究課題名(和文)北東アジア危機言語の記述と類型に関するネットワーク構築

研究課題名(英文)Establishment of a network for the study of endangered languages in Northeast Asia

研究代表者

津曲 敏郎 (TSUMAGARI, Toshiro)

北海道大学・文学研究科・教授

研究者番号：80113588

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、これまで個別に行われてきた北東アジア危機言語の記述・類型研究の統合をはかり、言語資料のデータベース化と、研究者間のネットワーク構築をめざした。この目的にそって、代表者と分担者がそれぞれツングース諸語と古アジア諸語について、自身の調査研究を推進して成果を公開するとともに、それぞれの関連研究者に広く連携を呼びかけ、研究会の開催、研究論集の年次刊行を実施した。

また、海外から話者や研究者を招へいして国際的な展開をはかるとともに、データや分析結果をWeb上で公開して、研究者や話者コミュニティとの持続可能なネットワーク構築に一定の成果を得た。

研究成果の概要(英文)：In this study, we aimed to establish a network for the study of endangered languages in Northeast Asia. Some Japanese linguists, including those of younger generation, have conducted fieldworks on these languages, but with less mutual contact.

As specialists of Tungusic and Paleoasiatic languages, we have not only promoted our own researches, but also provided workshops and a journal for other researchers of the same interest. During our five year study, we have established a new journal Northern Language Studies to be published annually, to which many linguists contributed papers and materials. The five volumes of the journal are also available in electronic form on the web site to be shared by worldwide readers, including members of native community.

We invited native speakers and/or researchers of minority languages to extend our network internationally and sustainably.

研究分野：言語学、とくに北方諸言語の記述的・類型的研究

キーワード：危機言語 少数民族 北東アジア ネットワーク

1. 研究開始当初の背景

(1) 危機言語研究の持続的推進のために

「危機言語」、すなわち消滅の危機に瀕した言語の記述研究の必要性と緊急性が叫ばれ、認識されるようになったのは1990年代以後である。日本国内でもこれを受けているような動きがあったが、なかでも特筆すべき組織的な取り組みは、平成11～14年度科研費特定領域研究(A)(1)「環太平洋の消滅に瀕した言語にかんする緊急調査研究」(領域代表:宮岡伯人)である。本研究の代表者津曲と分担者呉人の両名もこのプロジェクトの中心的メンバーの一翼を担い、同プロジェクトは画期的な成果を収めたが、その終了に伴い、その取り組みを持続的に発展させることが重要課題となっていた。

(2) 代表者と分担者の準備状況

本研究の代表者津曲は、これに先立ち、中国とロシアでの調査が可能となったかなり早い時期(1980年代後半)からツングース諸語の実地調査を行ってきた。それをもとに各言語の語彙やテキスト記録、文法記述を行うとともに、相互の類型的比較や他言語との接触にも関心を払ってきた。また、北東アジアから北米西海岸に至る「環北太平洋地域」諸言語の若手研究者を統合し、研究会開催や論集刊行などを通して、研究者間の連携をはかるうえでも中心的な役割を果たしてきた(一例として津曲編著『北のこぼれフィールド・ノート』北大図書刊行会2003参照)。

いっぽう、分担者の呉人はこれまで古アジア諸語の一つコリヤーク語の調査研究に携わり、文法記述、テキスト収集、語彙集編纂、さらには言語民族誌の刊行などにより、その記録保存に努めてきた(呉人恵著『コリヤーク言語民族誌』北海道大学出版会2009ほか)。加えて、古アジア諸語研究者と共同で複統合性や品詞の画定問題などをめぐる類型論的研究にも着手している。また、日本言語学会危機言語小委員会の委員長を務めてシンポジウムを組織するなど、危機言語研究の推進役を果たしてきた。

本研究は、こうした背景を持つ両名が中心となって、最小限の組織のもと、より効率的かつ持続可能なかたちで、あらたな北方言語研究者ネットワークの構築をめざすべく、企図されたものである。

2. 研究の目的

本研究は次のような目的を掲げてスタートした。

(1) 研究者間および現地コミュニティとの持続可能なネットワーク構築

研究会開催、論集刊行、Webサイト立ち上げ等の活動を通して、内外の研究者間のネットワークを構築する。特に両名が継続的にかかわっているフィールドに関しては、現地への成果還元や現地語教育への寄与を視野に、現地コミュニティとのネットワークとして

も機能するような専用サイト立ち上げ等により、関係の強化と維持をはかる。いずれも本研究終了後も継続的な発展が期待できるような、持続可能なシステム構築をめざす。

(2) データベース化と公開

これまでに蓄積されているデータを文字化し、コーパスとして共有できるようなかたちに整備してデータベース化する。これには音声資料も添えて、CDメディアもしくはWeb上などで公開する。可能な限り、他の研究者の協力もあおいで、データのリンクないし一元化を試みる。

(3) 記述研究の推進

両名がそれぞれ、すでに調査研究実績のある言語(津曲はウデヘ語、ウイルク語等、呉人はコリヤーク語)の記述研究を継続発展させることにより、(2)のデータベース化の一環として既存資料の補完・拡充を行うばかりでなく、他の研究者とも連携をとって記録の促進をはかる。必要に応じて研究協力者(北海道大学院生ほか)の協力を得る。

(4) 言語接触および類型論的比較研究の推進

ネットワーク作りの一環として、国内を中心に他の研究者にも参加を呼びかけて研究会を毎年組織し、その成果を盛り込んだ研究論集を年度ごとに刊行する。そこでは個別の言語の記述研究や言語資料のみならず、複数の言語にまたがる言語接触の問題や類型的比較を積極的に取り上げ、言語の変容および類型論研究への寄与をはかる。

3. 研究の方法

(1) ネットワーク構築による研究推進

危機言語の記録とそのデータにもとづく類型的比較研究は、車の両輪のように並行して推進されるべきものである。前者は個別研究に傾きやすいが、後者の推進には共同研究の場があることが望ましい。むしろ個別言語の記録にとっても、研究者間の情報や意見の交換は不可欠である。本研究の代表者と分担者は、これまでそれぞれの科研費等による研究をとおして、語族や地域を超えた研究者間のネットワーク作りの必要性を痛感し、その準備を重ねてきた。

(2) スリム化した組織による連携の呼びかけ

一方で、上記大型科研プロジェクトにも参加し、組織を取りまとめるむずかしさも経験してきた。研究の個別化・孤立化を避け、なおかつ無理のない効率的な連携のあり方を模索した結果が、本研究の着想に結びついた。ツングース諸語と古アジア諸語をそれぞれ代表する研究者が二人で組織し、他の研究者に受け皿としての研究会や論集への参加を呼びかけるかたちで、研究上のネットワーク構築をはかることが、本研究の独創的な点であり、実現・持続可能な方法論である。両名

ともそれぞれの分野を牽引する立場にあり、これまで多くの研究会・シンポジウム等を組織し、研究論集を編集刊行してきた実績があることから、十分な成果が見込まれた。

4. 研究成果

(1) 現地調査

代表者津曲は本科研期間の平成 22～26 年度の各年度に渡り、ロシア沿海地方のウデヘ語話者のもとを訪れ、継続中のライフヒストリーに関するテキスト収集を行った。その成果は現地還元用のロシア語対訳付き原文テキスト（下記〔図書〕）一般向け翻訳書（〔図書〕）および関連論文等のかたちで刊行した。なお、この調査には年度により研究協力者 1 名（北海道大学大学院生）を帯同した。

またウイリタ語調査のため、別の研究協力者 1 名を 2 度に渡りサハリンに派遣した。その成果の一部として、長編の英雄物語テキストを刊行した（〔図書〕）。

分担者呉人はほぼ毎年度ハバロフスクへ赴き、カムチャツカから呼び寄せたコリヤーク語話者から聞き取り調査を行った。その成果は論文に盛り込むとともに、テキスト集（〔図書〕）として刊行した。

(2) 研究者等の招へい

平成 25 年度に、サハリンから現地語教育等にも実績のあるウイリタ語話者 2 名を招へいした。招へい期間中には公開講演会を開催するとともに、報告書（上記〔図書〕）刊行のための共同作業を進めた。

翌 26 年度には同じくサハリンから博物館員 2 名（うち 1 名はウイリタ民族）を招へいし、言語文化の保持活動について意見交換を行うとともに、札幌と網走でそれぞれ公開講演会を開催した。

(3) 国際会議での発表

津曲はサハリンで 2 度〔学会発表〕、韓国ソウルで 3 度〔学会発表〕、本研究にかかわる研究発表を行った（韓国ではいずれも招待講演）。呉人はスウェーデンでポスター発表〔学会発表〕、イタリアで研究発表〔学会発表〕を行った。国際的な場で発表することで、海外の研究者と連携を深め、研究上のネットワークの拡大をはかることができた。

(4) シンポジウム等の開催

本研究が中核となって組織・参画したシンポジウム等として、各年度に次のようなものがある。

「言語で巡るシベリアの旅：極寒の地に暮らす人々とことば」2011 年 2 月 5 日、北海道大学（札幌）。

「池上二良先生追悼シンポジウム：北方言語研究の歩み」2011 年 12 月 17 日、北海道大学（札幌）、津曲発表〔学会発表〕。

「コリヤーク語形容詞述語構造に関する記述・類型研究 研究会」2012 年 7 月 20 日、北海道大学（札幌）、呉人発表〔学会発表〕。

「北方研究教育センターフォーラム それぞれのロシア：20 世紀北東アジアに生きた人々の語りと記録」2013 年 7 月 6 日、北海道大学（札幌）、津曲・呉人発表〔学会発表〕。

「北方の言語と文化にかんする国際シンポジウム」2015 年 1 月 24-25 日、北海道大学（札幌）、津曲発表〔学会発表〕。

(5) 論文集の創刊・継続と資料の刊行・公開

国内の関連研究者に広く呼びかけて、初年度に『北方言語研究』誌を創刊した。本研究代表者と分担者が編集とりまとめにあたり、各投稿論文や資料・研究ノートには 2 名の外部査読者を依頼してレベルの向上と維持をはかった。創刊号からコンスタントに 10 件を超す論考が寄せられ、各年度順調に刊行され、5 号を重ねるに至っている（〔図書〕）。

ISSN 登録を済ませ、印刷体で関係研究者や機関に配布するとともに、北海道大学の機関リポジトリ HUSCAP で全号・全ページを電子的に公開している。本科研終了後も、北方言語の専門学術誌として継続の予定である。本誌を創刊し、定着させて、継続への道のりを示せたことは、本科研の大きな成果である。

本研究ではまた、代表者・分担者らによる調査研究で得られた資料を刊行し（〔図書〕）、その一部は音声資料を含めて電子媒体でも公開している（〔図書〕）。これにより、国内外の研究者に学術的利用の便宜を与えるのみならず、当該言語コミュニティによる保持・活性化活動にも寄与しうるのであると考えている。

(6) 社会への発信と現地還元

危機言語についてはまだ一般の認識が薄く、専門家以外の学生や市民に向けた普及活動が重要である。本研究では初年度にホームページを立ち上げ、情報の発信やアーカイブ化を目指してきた。

また、代表者・分担者がそれぞれ機会を見つけては、市民向けの講演等のかたちで、危機言語一般にかかわるテーマや、本研究成果の一端を紹介してきた（一例として〔学会発表〕）。

さらに、危機言語研究では話者や現地コミュニティと連携しつつ、得られた成果を還元することも重要である。本研究の成果のうち、原文資料テキストの刊行ではロシア語訳を付すなどして、現地での使用に配慮し、可能なものは電子的に公開して Web 上で世界中だれでもアクセスできるようにした。さらに、少数民族の話者や研究者を招へいたり、現地での国際会議で少数民族言語による研究発表〔学会発表〕、〔研究論文〕も参照

も試みるなど、現地コミュニティとのネットワークの強化・維持という点でもおおいに成果があった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 22 件)

津曲 敏郎, 少数民族言語で語る場の創出: サハリン「原語」学会の試み, 北海道民族学, 査読有, 11 号, 2015, 84-92

呉人 恵, コリヤーク語の複統合性: 抱合と接辞の折衷タイプ, 北方言語研究, 査読有, 5 号, 2015, 55-82

<http://hdl.handle.net/2115/58328>

津曲 敏郎, ピウスツキ採集のウイльта語民話テキスト, 北方言語研究, 査読有, 4 号, 2014, 213-231

<http://hdl.handle.net/2115/55131>

Tsumagari, Toshiro (津曲 敏郎), Remarks on the Uilta folktale text collected by B. Pilsudski, 北方人文研究, 査読有, 7 号, 2014, 83-94

<http://hdl.handle.net/2115/55039>

呉人 恵, コリヤーク語における動作名詞と動作主・被動作主名詞: 名詞化の度合いに注目して, 北方言語研究, 査読有, 4 号, 2014, 43-64

<http://hdl.handle.net/2115/55118>

呉人 恵, コリヤーク語における S=A 交替, 北方人文研究, 査読有, 7 号, 2014, 25-53

<http://hdl.handle.net/2115/55036>

呉人 恵, コリヤーク語動詞の自他対応: 中立型か他動詞化型か, 北方言語研究, 査読有, 3 号, 2013, 85-109

<http://hdl.handle.net/2115/52603>

呉人 恵, コリヤーク語の形態的・統語的能格性: 動詞の一致と節連接を中心に, 北方人文研究, 査読有, 6 号, 2013, 47-64

<http://hdl.handle.net/2115/52612>

Tsumagari, Toshiro (津曲 敏郎), A note on Udihe phonology from an areal-typological perspective. *Recent Advances in Tungusic Linguistics* (A. L. Malchukov & L. J. Whaley eds., Harrassowitz Verlag), 査読有, 2012, 79-86

呉人 恵, チュクチ・カムチャツカ語族における属性叙述: N 形の意味・機能の異同に着目して, 北方言語研究, 査読有, 2 号, 2012, 115-137

<http://hdl.handle.net/2115/49254>

Kurebito, Megumi (呉人 恵), Adverbial clauses in Koryak: degrees of subordination and the five levels, 北方人文研究, 査読有, 5 号, 2012, 71-94

<http://hdl.handle.net/2115/49280>

Tsumagari, Toshiro (津曲 敏郎), An

Udihe folktale text: "Solomo and Tausima", 北方人文研究, 査読有, 4 号, 2011, 75-93

<http://hdl.handle.net/2115/45283>

呉人 恵, コリヤーク語の名詞化: 動作主・被動作主名詞の意味とシンタクス, 北方言語研究, 査読有, 1 号, 2011, 41-62

<http://hdl.handle.net/2115/45229>

呉人 恵, コリヤーク語の属性叙述: 主題化のメカニズムを中心に, 言語研究, 査読有, 138 号, 2010, 115-147

[学会発表](計 21 件)

津曲 敏郎, テキスト・音声データの公開と電子アーカイブ化, 北方の言語と文化にかんする国際シンポジウム, 2015 年 1 月 25 日, 北海道大学(北海道・札幌市)

Tsumagari, Toshiro (津曲 敏郎), Geroicheskiy epos ujlt'a *Ningmaa* (in the Uilta language) ウイльтаの英雄物語ニグマー(ウイльта語による発表), ロシア極東先住民族言語による第 1 回国際シンポジウム(招待講演), 2014 年 10 月 2 日, サハリン州郷土博物館(ロシア)

Kurebito, Megumi (呉人 恵), Choice factors in the case marking for underlying object in the Koryak S=A alteration, *Syntax of the World's Languages VI*, 2014 年 9 月 9 日, University of Pavia (Italy)

Tsumagari, Toshiro (津曲 敏郎), The Japanese word for 'word/language': with reference to Altaic equivalents, 第 11 回ソウル国際アルタイ学会(招待講演) 2013 年 12 月 6 日, ソウル大学校(韓国)

津曲 敏郎, 名詞結合の日韓類型比較: ツングース諸語, ニブフ語にもふれて, 嘉泉大学アジア文化研究所国際学術大会「アルタイ語内の韓国語, 韓国語内のアルタイ語」(招待講演), 2013 年 11 月 15 日, 嘉泉大学校(韓国)

津曲 敏郎, 少数民族言語による自分史と民族史: 沿海州ウデヘ人の筆記資料から, 北方研究教育センターフォーラム「それぞれのロシア: 20 世紀北東アジアに生きた人々の語り」と記録, 2013 年 7 月 6 日, 北海道大学(北海道・札幌市)

呉人 恵, トナカイ遊牧民コリヤークたちの語りと言語民族誌, 北方研究教育センターフォーラム「それぞれのロシア: 20 世紀北東アジアに生きた人々の語り」と記録, 2013 年 7 月 6 日, 北海道大学(北海道・札幌市)

津曲 敏郎, 少数民族言語による自分史と民族史: 沿海州ウデヘ人の筆記資料から, 北方研究教育センターフォーラム「それぞれのロシア: 20 世紀北東アジアに生きた人々の語り」と記録, 2013 年 7 月 6 日, 北海道大学(北海道・札幌市)

呉人 恵, トナカイ遊牧民コリヤークたちの語りと言語民族誌, 北方研究教育センターフォーラム「それぞれのロシア: 20 世紀北東アジアに生きた人々の語り」と記録, 2013 年 7 月 6 日, 北海道大学(北海道・札幌市)

津曲 敏郎, 少数民族言語による自分史と民族史: 沿海州ウデヘ人の筆記資料から, 北方研究教育センターフォーラム「それぞれのロシア: 20 世紀北東アジアに生きた人々の語り」と記録, 2013 年 7 月 6 日, 北海道大学(北海道・札幌市)

呉人 恵, トナカイ遊牧民コリヤークたちの語りと言語民族誌, 北方研究教育センターフォーラム「それぞれのロシア: 20 世紀北東アジアに生きた人々の語り」と記録, 2013 年 7 月 6 日, 北海道大学(北海道・札幌市)

津曲 敏郎, 少数民族言語による自分史と民族史: 沿海州ウデヘ人の筆記資料から, 北方研究教育センターフォーラム「それぞれのロシア: 20 世紀北東アジアに生きた人々の語り」と記録, 2013 年 7 月 6 日, 北海道大学(北海道・札幌市)

呉人 恵, トナカイ遊牧民コリヤークたちの語りと言語民族誌, 北方研究教育センターフォーラム「それぞれのロシア: 20 世紀北東アジアに生きた人々の語り」と記録, 2013 年 7 月 6 日, 北海道大学(北海道・札幌市)

津曲 敏郎, 少数民族言語による自分史と民族史: 沿海州ウデヘ人の筆記資料から, 北方研究教育センターフォーラム「それぞれのロシア: 20 世紀北東アジアに生きた人々の語り」と記録, 2013 年 7 月 6 日, 北海道大学(北海道・札幌市)

呉人 恵, トナカイ遊牧民コリヤークたちの語りと言語民族誌, 北方研究教育センターフォーラム「それぞれのロシア: 20 世紀北東アジアに生きた人々の語り」と記録, 2013 年 7 月 6 日, 北海道大学(北海道・札幌市)

津曲 敏郎, 少数民族言語による自分史と民族史: 沿海州ウデヘ人の筆記資料から, 北方研究教育センターフォーラム「それぞれのロシア: 20 世紀北東アジアに生きた人々の語り」と記録, 2013 年 7 月 6 日, 北海道大学(北海道・札幌市)

述語構造に関する記述・類型研究」研究会, 2012年7月20日, 北海道大学(北海道・札幌市)

呉人 恵, コリャーク語における自他対心, 国立国語研究所共同研究「述語構造の意味範疇の普遍性と多様性」研究会, 2012年6月30日, 京都大学文学研究科(京都府・京都市)

津曲 敏郎, 満洲語学の展開: 池上先生の残したもの, 池上二良先生追悼シンポジウム: 北方言語研究の歩み, 2011年12月17日, 北海道大学(北海道・札幌市)

Tsumagari, Toshiro (津曲 敏郎), An Uilta folktale text collected by B. Pilsudski, L. Ja.シュテルンベルグ生誕150年およびB. O.ピウスツキ生誕145年記念国際学術会議: 極東先住民の歴史と文化, 2011年11月8日, サハリン州郷土博物館(ロシア)

呉人 恵, コリャーク語の属性叙述専用形式と異常な統語操作, 日本言語学会第142回大会公開シンポジウム(招待講演), 2011年6月19日, 日本大学(東京都・世田谷区)

Kurebito, Megumi(呉人 恵), Property and event predication in the Koryak language: an argument for a new predication type theory, *The Second Conference in Linguistics within the Birgit Rausing Language Program* (Poster Session), 2010年9月11日, Centre for Languages and Literature, Lund Univ. (Sweden)

津曲 敏郎, ツングースの唄と語り, 第18回環オホーツク海文化のつどい「北の文化シンポジウム」(招待講演), 2010年8月28日, 紋別市文化会館(北海道・紋別市)

〔図書〕(計15件)

呉人 恵・津曲 敏郎(共編), 北海道大学大学院文学研究科, 北方言語研究 第5号, 2015, 317

<http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/handle/2115/58318>

アレクサンドル・カンチュガ(著)津曲 敏郎(編), 北海道大学大学院文学研究科, ウデヘ語自伝テキスト 8-1: 人生は続く(1)(ウデヘ語・ロシア語版), 2015, 131

呉人 恵・津曲 敏郎(共編), 北海道大学大学院文学研究科, 北方言語研究 第4号, 2014, 231

<http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/handle/2115/55098>

津曲 敏郎(監修・序)/山田 祥子(編訳), 北海道大学大学院文学研究科, ウィルタ長編英雄物語ニグマー: シーグーニ物語テキスト, 2014, 258

<http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/>

[handle/2115/56191](http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/handle/2115/56191)

Kurebito, Megumi(ed.)(呉人 恵 編), 富山大学人文学部, *Koryak text 1*, 2014, 113

A.カンチュガ(著)津曲 敏郎(訳), 北海道大学出版会, 増補改訳ピキン川のほとりで: 沿海州ウデヘ人の少年時代, 2014, 348

呉人 恵・津曲 敏郎(共編), 北海道大学大学院文学研究科, 北方言語研究 第3号, 2013, 212

<http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/handle/2115/52566>

A.カンチュガ(著)津曲 敏郎(編), 北海道大学大学院文学研究科, ウデヘ語自伝テキスト 7: 渤海 ツングースの最初の国家(ウデヘ語・ロシア語版), 2013, 173

呉人 恵・津曲 敏郎(共編), 北海道大学大学院文学研究科, 北方言語研究 第2号, 2012, 224

<http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/handle/2115/49244>

津曲 敏郎(編集代表), 北海道大学大学院文学研究科, 北方言語研究 第1号, 2011, 228

<http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/handle/2115/45225>

A.カンチュガ(著)津曲 敏郎(編), 北海道大学大学院文学研究科, ウデヘ語自伝テキスト 6: 挾妻と鞅鞞 ウデヘの祖先(ウデヘ語・ロシア語版), 2010, 144

〔その他〕

ホームページ

<http://www.hucc.hokudai.ac.jp/~r16749/elena/index.html>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

津曲 敏郎 (TSUMAGARI, Toshiro)
北海道大学・大学院文学研究科・教授
研究者番号: 80113588

(2) 研究分担者

呉人 恵 (KUREBITO, Megumi)
富山大学・人文学部・教授
研究者番号: 90223106

(3) 研究協力者

白 尚燁 (BAEK, Sangyup)
山田 祥子 (YAMADA, Yoshiko)